



## 夏の夢、今、走り出す

「夏」といえば、高校野球を思い浮かべます。そして、上の言葉は、ABC(朝日放送)の今年の高校野球キャッチフレーズです。また、高校野球応援ソングも『あとひとつ』(ファンキーモンキーベイビーズ)に決まりました。“あと一粒の涙で ひと言の勇気で 願いが叶う その時が来るって 僕は信じているから 君もあきらめないでいて 何度でも この両手を あの空へ のばして あの空へ”という歌詞です。

さて、明日から始まる夏休みは、日ごろできないことに挑戦できる絶好のチャンスです。学習に、部活にボランティアに・・・、できるだけ多くの体験をしてほしいと思います。「この夏休みは〇〇をしたい」という夢を持ち、それを叶えてください。いよいよ明日、42日間の夏の夢がスタートします。

しかし、その一方で、「したくてもしてはならないこと」「やりたくなくてもやらなければならないこと」もあります。そこで、「トリプルT (Takuchu Target Ten) -夏休み編-」を下のように設定しました。前回の結果は3勝7敗だっただけに、今回はぜひとも「勝ち越し」を期待しています。

### 諫中ターゲット10 — Summer Vacation Version —

- ① 「宿題提出率100%」を達成する。
- ② 「清掃無断欠席者ゼロ」を達成する。
- ③ 「部活動無断欠席者ゼロ」を達成する。
- ④ 「携帯電話トラブルゼロ」を達成する。
- ⑤ 「金銭トラブルゼロ」を達成する。 → 春休み：2件
- ⑥ 「交通事故ゼロ」を達成する。 → 6月：2件、7月：1件
- ⑦ 「資源回収参加率90%」を達成する。 → 1回目参加率：72%
- ⑧ 「う歯治療率100%」を達成する。 → 現在：16%(50人中治療完了8人)
- ⑨ 「海・山の事故ゼロ」を達成する。 → 昨年度：0件
- ⑩ 「交通ルール等に関する地域からの苦情を3件以下」にする。 → 6月：3件、7月：3件

### 自分の言葉で語れるコミュニケーション能力を

ここ10年、携帯電話が子どもたちの世界にまで急速に広がり、電車の中でも多くの高校生たちはメールに没頭しているのを目にします。車内が騒がしくないのは結構ですが、座席に座っている女子高生がズラっと並んで携帯でメールをしている光景は異様です。学校の帰りにコンビニに寄っても、スーパーで買い物をして、一言も会話せずに用事を済ませているといった具合です。自販機でジュースを買っても、しゃべるのは自販機の方だし、家に帰って「今日、学校はどうだった？」と聞かれれば「別に・・・」、「楽しかったの？」と問われれば「ふつう・・・」と言って自分の部屋に逃げ、テレビをつけながらゲームに興じています。コミュニケーションしなくていい世の中で、今の子どもたちは育っているわけです。

ところが、一方では社会が求める資質・能力はまったく逆です。経団連の「新卒採用に関するアンケート調査結果」によると、「選考に当たって重視するもの」の順位は、①コミュニケーション能力(79.5%)、②協調性(53.0%)、③主体性(51.6%)、④チャレンジ精神(49.4%)。「コミュニケーション能力」が断トツですが、この傾向は毎年顕著になってきているんです。(※中略)

「コミュニケーション能力の育成は対話から」とよく言われます。対話は相手の話をよく聞くことが前提です。相手が何を求めているかを把握し、必要とされていることを返さなければなりません。それも、他人の言葉でなく、自分の言葉で語る必要があるんです。

自分の言葉で語れないのは、「ネタ」を持っていないからです。「ネタ」とは自分自身の体験です。人は誰でも生まれてから今日まで様々な体験をしています。それをその時々はどう感じたか、どう対処したか、自分の長所は、短所は、といった自分史を持っているかどうかなんです。自己分析をし、自分を知っている人は、たとえささやかな体験であっても、相手の求めていることに自分の言葉で返せるはずなんです。子どもに自分の生き立ちを振り返らせ、様々な体験をもとにして自己分析させることは、自己肯定感を持たせることにもつながるんです。(※月刊「悠」7月号。「野口克海の元気な学校で行こう」から抜粋)

9月1日、全員そろって「秋の夢」に向かってスタートが切れることを願っています。